

委員等意見の反映について（行動計画改定関係）

平成 29 年度第 1 回協議会（平成 29 年 7 月 13 日）での主な意見

意見概要	対応
<p>「5つの力」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ すべての力が、どの世代においても大切 ➤ 5つの力については、全てを育んでいくことが必要 ➤ 5つの育む力の順番についてはあまり意味がないが、④の行動につなげることが最終目標であることは示した方がよい ➤ ④「環境を守る行動につなげる力」がこれまでの課題から考えると一番目指したいところだと感じる。①②③がそれぞれできるからこそ行動に結びつくと思う ➤ 行動につながっていることが大事な視点であるのならば、④の位置ではなく、⑤にしても良いのではないか。 ➤ 育む力の表現の仕方はもっと工夫し、分かりやすくイメージしやすいものだと良い。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 感性という言葉在前面に出した場合、全て「心」の作用ではないかと思う。「心」という表現にすれば、全体で一つの取組として、うまくまとめられるのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 発達段階ごとに育てる力のポイントを変えると良いのではないか。5つの力は全て必要ではあるが、力を育むための施策が各世代により異なると考える <ul style="list-style-type: none"> ➤ 各発達段階において、5つの力それぞれについて、どういうことができたら達成できるのかを示す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5つの力を並列で示し、全体で行動につなげていくように表現を変更した。また、すべての力の表現方法を、簡潔に改めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「心」という意味合いも含んでいることを、本文の中で言及する予定。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「家庭」、「学校」、「社会」のいずれでも、5つ全ての力を育むことが重要であるが、主に育むのはどの力かを記載することとした。 <p>（今後の検討課題）</p>

<ul style="list-style-type: none"> ➤ 人が行動を起こすのは、魅力や必要性、価値を感じる時、何をやっていけばいいのか見通しを持つことができた時である。また、行動することによって何が変わったのか成果を自覚できた時に、さらなる行動につながる。そういう意味での段階があるという考え方を新行動計画に取り入れていく必要がある ➤ 何か環境に関心を持つきっかけがあると、全体的に環境について深く考えていくことができるのではと思うが、そのきっかけを得ることがなかなか難しい。 ➤ 「きっかけ」と「行動した成果が見える」という両者が必要なのかもしれない <ul style="list-style-type: none"> ➤ 幼児の段階では、何かの行動にすぐ結びつくことはないかもしれないが、基礎的な力や感性、実感できる力を育てることが一番大切 ➤ 環境に関する基本的な感性をつくることが大切 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 物事を「選択する力」も大切 ➤ 誰もが生涯にわたって関わりのある「消費生活」の中で、ヒントになるようなものがあると、選択しながら大人が日常生活の中で学んでいけると思う。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ ⑤「みんなと力を合わせて」の表現は、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を踏まえ、グローバルな視点で表現してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の中で記述する予定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の記述の中で言及する予定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の記述の中で、「選択する力」も含むことに言及する。また、「家庭での取組を促進するために事業者に期待される支援」や「事業者の取組を促進するために家庭に期待される支援」の記述の中で言及する予定。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「共働する力」についての本文の記述の中で、グローバルな視点についても言及する予定。
--	---

意見概要	対応
<p>「家庭」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「家庭」の定義が必要。 ➤ SDG s (持続可能な開発目標)のテーマ「誰一人として取り残さない」を踏まえ、SDG sを自らの生活の中で少しずつでも行うと良いということを組み込めるといい。自分の選択で地球が変わる事が分かったら、どうすることが地球環境に影響するのかが学べる。家庭を学びの場にするために、家庭の「あらゆる場面」で学び、気付くことができるということを計画のなかに組み込めるとよい。 ➤ 行動する家庭」に変わっていけるよう、社会や学校、行政が何ができるのかが大きな課題 ➤ 5つの力を育むには、基礎の部分が重要。子どもが理解するためには親が理解していなければならず、また、親が理解していけるような社会環境が大切である。 ➤ 気づきの機会に満ち、選択する力が身につき、皆が環境に関心をもつ。その選択が投票同様に未来を変えていくことにつながる。ちょっとしたことでも行動したら社会が変わることに気づけるような取組を県で始められないか。 ➤ 「家庭」は学ぶための主体であり、気づくチャンスに満ちていれば、学びのスタートになる。気付くチャンス、きっかけ作りといったキーワードが入れられると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各主体について、行動計画の中での定義を記載する ・「家庭での取組を促進するために事業者に期待される支援」や「事業者の取組を促進するために家庭に期待される支援」の記述の中などで言及する予定 ・「家庭での取組を促進するために各主体に期待される支援」として記述する予定 ・「家庭の役割」についての本文の中で記述する予定
<p>連携・協働について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 小・中・高校を分断してそれぞれで環境教育をやっていくのではなく、どうやって繋げていくのかの視点が必要 ➤ 子どもに関わる世代間がつながることも大切 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の中で記述する予定

意見概要	対応
<p>計画の推進等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境学習等をやることでどのようなメリットがあるのかの記載がほしい。 ➤ 環境教育という縛りのなかでやるのではなく、学びの中でどう環境教育を行うのかを考えていくうちに、自然に環境教育をできるのではないか。 ➤ 新しく環境教育の枠を作っていくのではなく、それぞれの教科の中で環境教育がどのように位置づけられているのかを理解し取り組むことが大切。教員はかなり多忙であるので、新たなことをするのではなく、視点を換えることが大切であることを現場に周知していくことが今後の課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の中で記述する予定 ・本文の中で記述するとともに、新行動計画を学校へ周知する際にも伝えていく予定
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 様々な主体が関わり合うイメージ図について、検討してほしい。 	<p>(現在、検討中)</p>

委員への意見照会(平成 29 年9月1日)

意見概要	対応
<p>「5つの力」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 5つの力では「共働」、連携・協働の強化では「協働」の漢字が異なって使用されている。その違いが分かりやすく伝わるようにするため、漢字を統一するなり、漢字の説明入れるなりの検討が必要 ➤ 各主体の役割と施策の展開において、家庭や学校、社会で主に育む力として5つの力を割り振ることで、その部分だけに目がいつてしまう。家庭でこそ「活用する力」が必要だし、学校でも「体感する力」を育むことが重要である(特に、最近では授業で実体験を積むことが少ない) ➤ 「5つの力」について、「環境学習等を通して育む力」というより、「行動につなげるために、環境学習等を進めるにあたって大切にしたい要素」のように感じる ➤ 「5つの力」の表現は、すっきりしたもの、吟味する必要があるように思う。今のような美しいバランスは崩れるが、「自然の素晴らしさや、環境の大切さを感じ取る力」「多面的に考察し、問題を解決する力」「身に付けた知識やスキルを活用する力」「他と共働して課題解決に取り組む力」そして、全てのベースとして「理解すること(力)」があるとしてはどうか。 <p>「家庭」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「学校での取組を促進するために家庭に期待される支援」として、「日頃の生活体験、消費体験等に根ざした、積み重ねによる実践的な環境教育の実施・支援」などとしてはどうか ➤ 「家庭」のところに「『体感する力』を主に育む」と記述されているが、家庭(日常生活)は、まさに学んだことを「活用する場」なのではないかと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・本行動計画において、「個人と個人」の場合に「共働」を、「主体と主体」の場合には「協働」を用いることを明記する ・どの主体においてもすべての力を育んでいくことが重要である旨を明記したうえで、各主体の役割の中で可能な限り全ての力について言及する ・行動につなげるための要素として「5つの力」を明示し、各主体が環境学習等を進めていくうえで共有できるようにする ・分かりやすい端的な表現を見出しとして残しつつ、それぞれの力について詳しく説明していく <p>・「家庭」について、「日々の生活体験、消費体験等を通し、学んだことを実践・活用する場」であることを記載する</p>

<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「家庭」の定義は、それぞれが「日々の生活の中で」、「日常の暮らしの中で」の意味が加われば、「家庭」が単身か家族かを意識しなくても良いと感じる <p>「学校」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 幼稚園・認定こども園・保育所等は「学校」に分類されているが、「役割」でみると「家庭」と「学校」の中間的な位置と考えられる。「5つの力」の重点も、「学校」は「理解する力」「探求する力」となっているが、幼児教育においてはむしろ「家庭」と同様「体感する力」に重点があると思う ➤ 「学校」の「役割」及び「期待される主な取組」に「発達段階に応じた環境教育」と記載されているが、幼児教育における「体感する力」を育む取組をもう少し明確化してはどうか ➤ 学校に期待される取組に、「各教科や総合的な学習の時間を活用した探究的な環境学習の実施」などと授業での取組に言及してはどうか <p>「社会」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 最近では、環境活動に対する地域コミュニティ活動も活発化していることから、「社会における環境学習の推進」の主体として、「ア 事業者」「イ NPO」「ウ 行政(市町村)」に「地域コミュニティ(自治会)」を加え、その役割や期待される取組、支援等を検討してはどうか ➤ 「市町村民」を「住民」と表現してはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日々の生活・活動の中で」の意味を加えて記載する ・「体感する力」は、家庭だけでなく幼稚園・認定こども園・保育所～小学校低学年においても重点が置かれていることを記載する ・「各教科や総合的な学習の時間を活用した探究的な環境学習の実施」などと授業での取組を追加する ・各主体について定義づけしたうえで、「地域コミュニティ」の役割や期待される取組、支援等が分かるように記載する ・「住民」で統一する
--	--